

平成 27 年度第 1 回岩手県震災津波関連資料収集活用有識者会議

岩手日報 平成 27 年 8 月 11 日 (火)

# 震災資料を後世へ

## 収集保存の検討開始

有識者  
県会

県は10日、東日本大震災に関する資料の収集や活用について検討する第1回有識者会議を県庁で開いた。本年度は収集対象や方法などの方針を盛り込むガイドラインを策定し、市町村などと共有。将来的なデジタルアーカイブ(保存)の構築や

伝承施設での展示につなげる。県内外の大学教員や報道機関などの委員ら約20人が出席。岩手大地域防災研究センターの南正昭センター長が委員長に就き「初めての経験、積み上げてきた知識を後世に残す」とは大きな役割だ」と

あいさつした。

これまで書籍や写真、証言などの資料保存は県や市町村、民間団体がそれぞれ行ってきたが、コスト面などの課題から取り組みや目的には差異があり、連携も図られていなかった。

同日の会合で県は、収集活用目的を▽防災▽教育▽交流人口の三つの観点で限定する基本的な方向性を提案。ウェブサイトで公開するデジタルアーカイブの構築にあたっては、できるだけ費用がかからない方法を検討する考えが示された。

次回は9月に開催し、県と市町村の役割分担や収集から活用までの作業プロセスなどを定めるガイドラインの検討に入る。

の園  
田公  
高祈  
前念  
陸復

# 基本設計、本年度策定へ

## 盛岡 有識者委が初会合



高田松原津波復興祈念公園基本設計の本年度策定を了承した第1回有識者委員会

陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園を設計する国、県市の有識者委員会(委員長・中井煥裕、東京工科大学、院長)は5日、盛岡市内丸の真水産会館で初会合を開き、基本設計を本年度策定する方針を了承した。

委員6人のうち代理を含む5人が出席。設計を話し合う「空間デザイン」と市民らによる管理・運営体制を話し合う「協働体制」、震災伝承施設に必要な機能や展示内容を話し合う「震災伝承」の3ワーキンググループ(WG)設置を決めた。今後は各WGを3、4回程度開き、まとめ

た内容を来年3月ごろの第2回委員会で検討。本年度中の基本設計策定を目指す。

来年度は工事に必要な詳細事項を定める実施設計を区画ごとに分けて行い、着工する。

中井委員長は「各WGや国、県、市の連携

を高める必要がある。しっかりと機能するように調整役として委員会が「にしたい」と話した。

### 震災津波伝承施設(仮称)第1回検討委員会

岩手日報 平成27年9月5日(土)

の設  
田施  
高承  
前伝  
陸津

# 本年度内に展示計画案

## 盛岡で検討委初会合

陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園について意見を交わし、本年度内に展示計画案を取りまとめる準備する震災津波伝承施設の検討委(委員長・南正昭、岩手大地域防災研究センター長)は4日、盛岡市内丸の真水産会館で初会合を開き、展示内容の方向性などと震災遺構などを見て

被災現場を学ぶ屋外展示によって、震災の実情と教訓を伝える場を創出することや県民や

NPOなどと連携し、活発な震災学習交流を展開することなどを示した。

委員から「過去の津波災害も紹介し、知恵を絞って乗り越えてきたことを示しては」「や「防災教育、知的観光」

委員6人が出席。県は方向性として▽伝承▽学習▽コミュニティ▽交流・観光の4つを掲げた。屋内展示の拠点となるようにした方が良い」などの意見が出された。

南委員長は「施設の持つべき役割を明確にし、持続性と発展性のある施設となるよう議論していきたい」と話